

細胞検査士について

臨床検査技師 河上 衣舞妃

■人間は細胞の集まり

人間の体は、約60兆個の「細胞」からできています。同じ働きを持つ細胞が集まって、筋肉や神経などの「組織」が作られます。さらに、特別な働きをするように組織がまとまったものが、心臓や肺などの「臓器」です。細胞の1つ1つに個性があり、種類によって形や性格は異なります。いつもは、細胞同士が協力し合って体の健康を守っています。しかし、時として自由勝手に行動する細胞が現れ、数を増やしていきます。これが「がん細胞」です。細胞診検査では、綿棒や注射器で病変部から一部の細胞を採取して標本を作製し、顕微鏡を用いてがん細胞が含まれているかを調べます。

■病理検査とは

病理検査は、患者さんから採取した細胞を観察する「細胞診検査」と、手術などで切り取った組織や臓器を観察する「組織検査」に分けられます。組織・臓器を一つの山とするならば、細胞はその山を構成する1本1本の木という位置付けになります。細胞診検査でがんを疑う細胞を発見した場合には、がんの広がりなどを知るために組織検査に移ります。細胞診検査は、組織検査の前段階としての役割を担っており、がんの早期発見に重要です。当院では、病理診断科という部署で検査が行われています。細胞検査士がまず初めに標本を観察し、その後、医師（病理医）と協議したうえで、最終診断を決定しています。

■細胞検査士になるには

がんの早期発見のため、細胞の変化をいち早く捉えてがん細胞を見つけ出すのが細胞検査士です。細胞検査士

になるためには、まず臨床検査技師の資格取得が必須です。その後、病理検査業務を1年以上経験することで、認定試験を受験できるようになります。また、細胞検査士養成所や養成コースのある大学を卒業することでも受験可能です。医療は日進月歩で変化しています。より質の高い医療の提供のために、資格取得後も所定の単位を取り、資格更新をする必要があります。がんの早期発見と精度の高い診断に向けて日々努力を重ねています。

■がん検診を受けましょう

細胞診検査は比較的負担の少ない検査方法です。検診受診率向上のための活動として、4月9日を「子宮の日」と題し、子宮頸がん検診啓発活動「LOVE49(ラブしきゅう)プロジェクト」を行っています。子宮頸がんは20代～30代の若い女性に急増中で、島根県における子宮頸がん検診受診率は32%(2016年度時点)です。子宮頸がんは、定期検診によって、がんになる手前の細胞を発見し、予防できる唯一のがんでもあります。パンフレット配布やイベントなどの広報活動を通して、検診の重要性を伝えることも細胞検査士の役割の一つです。当院では、健診センターにて子宮頸がん検診が受けられます。また、島根大学医学部歯科口腔外科学講座と共催で、「無料口腔がん集団検診」も行っています。自分の体は自分だけのものではありません。大切な家族や友人のために、ぜひ、がん検診を受けていただければと思います。

